

## ヤマセミ *Megaceryle lugubris* (Temminck)

### 【選定理由】

主に山間部の河川やダム湖などに周年生息して繁殖し、冬期には平野部でも見られることがあった。近年は県内での生息数が激減しており、県内の繁殖数は庄内川水系でほぼ0、矢作川水系で4～5ペア程度、豊川水系で数ペア、天竜川水系でも数ペア程度であり、県内における推定繁殖数は多くても10ペア程度である。1990年代までは県内山間部に広く分布して繁殖しており、2000年代前半までは、渡りの季節に河川の下流部や沿岸部、海上でも確認記録があった。

### 【形態】

全長 38cm。頭部から背、尾にかけての上面は白黒のかこの模様で、下面は白い。嘴は黒く、冠羽がある。雄は胸に黒色と橙褐色の斑があり、下雨覆は白い。雌は、胸の斑が黒色だけで下雨覆は橙褐色。



愛知県豊田市, 2004年12月4日, 杉山時雄 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

山間部の河川や湖沼に周年生息し、周辺の崖で繁殖する。冬期には平野部でも記録されることがあり、以前県内の生息数が多かった頃は、渡りの季節に伊勢湾を越える個体も確認されている。

#### 【国内の分布】

九州から北海道まで広く分布する。

#### 【世界の分布】

アフガニスタン北東部からヒマラヤ、タイ北西部、ミャンマー、ベトナム中部、中国南部、日本に分布する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

山間部の河川や溪流、ダム湖や池沼などを餌場とし、広いなわばりを持って生息する。山地の崖に横穴を掘って繁殖するが、餌場である水辺から遠く離れた場所に営巣することも希ではない。水中に飛び込んで主に魚類を捕食するが、魚がほとんどいない沼にも飛来することから、両生類なども捕食しているものと思われる。飛びながら、キャラッ、キャラッ、ケレレレなどと鳴く。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

大きめの体に白黒の模様が目立つので、比較的確認され易い種である。生息地における行動範囲も広いことから、県内各地で普通に観察できた頃でも、生息数はそれ程多くなかったと思われるが、現在繁殖期に県内で毎年安定して確認できる場所は5箇所程度である。山間部の渓谷や川、湖沼などから餌となる魚が減少しているとともに、特に愛知県では、営巣環境である高い土質の崖は、そのほとんどが消失している。

### 【保全上の留意点】

山間部の河川や湖沼から餌となる魚類が減少しているため、魚類の自然繁殖や生息数の増加を図る必要がある。山間部の道路管理等では、生物の保護に配慮した工法を考えていくべきである。

### 【特記事項】

愛知県鳥類生息調査や西三河野鳥の会機関紙の記録等をみると、県内で本種が減少した時期は、大型の魚食性水鳥であるカワウやアオサギが山間部に進出して確認数が増え、繁殖が始まった時期と概ね一致している。

### 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.108. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)